



明化の教育

1月号(第529号)

令和7年1月8日

文京区立明化小学校

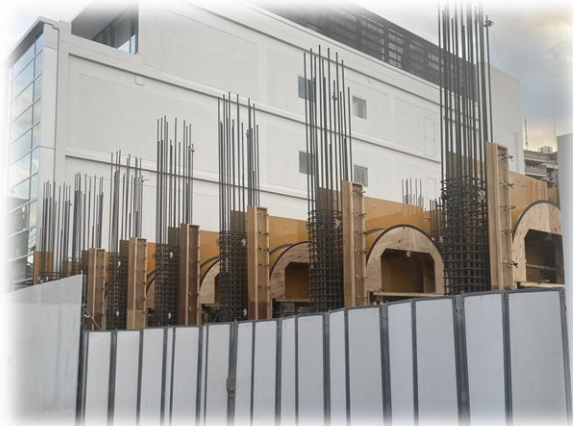
校長 熊倉 勝

2025年明化小の漢字は「躍」

校長 熊倉 勝

令和7年が始まりました。旧年中は、本校の教育活動に多大なるご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。皆様にとって本年が幸多き年となることを心から祈ります。本年も、明化小学校をどうぞよろしくお願いいたします。

さて、2024年「今年の漢字」は「金」でした。毎年テレビ等で、清水寺にて森清範貫主が大きな和紙に「今年の漢字」を一気に書き上げる様子が放映されています。「金」は、2000年、2012年、2016年、2021年に続き5回目となりますが、同じ「金」でも、書かれた文字は一つとして同じものではなく、毎回違った趣があります。それは、その時の世相や意味が違うからだと思います。今回は、



新校舎の建築が順調に進んでいます。コンセプトは「復元的改築」。1階がアーチ形の天井になる様子が伺えます。

パリオリンピックやパラリンピックに出場した日本の選手が数多くの金メダルを獲得したほか、大谷翔平選手が3回目のMVPを獲得するなど値千「金」の活躍だったこと、「佐渡島の金山」が世界文化遺産に登録されたことなど、光をあらわす「金(キン)」と政治の裏金問題や止まらない物価高騰など、影をあらわす「金(かね)」の2つの意味を示しているということです。

そこで、2024年「明化小の漢字」を考え、終業式で子供たちに発表しました。その漢字は「祝」です。昨年、本校は開校150周年を迎え、記念すべき1年となりました。周年行事等の活動を通して、本校を支えてくださっている多くの方々と共に150周年をお祝いしました。全校で作ったちぎり絵の横断幕、保健給食委員会が募集したお祝い給食の献立も、子供たちの心に残ったことでしょうか。開校150周年記念児童集会では、各学年の出し物でお祝いの気持ちを表しました。また、本校卒業生の一行院住職八木千暁様(6年生時に100周年)の雅楽演奏、同じく卒業生の越川廉様(6年生時に140周年)から器楽部に寄贈された式典序曲より卒業生の活躍を肌で感じることができました。このような一連の活動を経て、子供たちは本校の歴史や伝統を知り、新しい明化小学校の歴史を自分たちで創っていくという意欲をもつことができた貴重な1年になったと考えています。

新年にあたり2025年の「明化小の漢字」を私なりに考えてみました。それは、「躍」(ヤク・とぶ)です。「躍」を使った漢字には、飛躍、躍動、活躍、躍進等がありますが、開校150周年を基に大きく飛躍する年にしたいという願いから考えました。飛躍の1年とするためのキーワードは、“少しずつでも進化”です。昨年は、これまで続けてきた「あいさつ運動」に変化がありました。代表委員会の発案で、1年と5年、2年と4年、3年と6年の縦割りにして全校で取り組むことにしたのです。その結果、低学年の元気な声の挨拶で、朝の玄関の雰囲気が一変しました。明るく穏やかな時間となったのです。さらに「あいさつは人を笑顔にする」などの言葉が記された襷を掛けることで、責任感が生まれました。異学年と一緒にいったことで互いの刺激となり、活性化された感じがします。挨拶をした子も、された子も気持ちがよくなったことに違いありません。このような心地のよい経験が自ら挨拶をする気持ちにつながるのだと思います。これは一例ですが、今年度は、150年の歴史と伝統を大切にしつつ、新たな工夫を重ねることで充実した教育活動を展開したいと考えています。まずは、開校150周年記念展覧会です。そして、11月末には待望の新校舎が完成します。どうぞご期待ください。

今年も教職員一同、保護者・地域の皆様と手を携えて、全力で子供たちの教育にあたって参ります。引き続きのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。